

放課後支援推進事業

放課後子どもプラン県北地区研修会

in 安達公民館

目 的： 地域が子どもたちを支えていく取組を推進するため、県内の放課後子どもプラン関係者が一堂に会し、事業への理解を深めるとともに、放課後対策事業の関係者の資質向上を図る。

日 時： 平成25年8月21日（水）

場 所： 安達公民館



講演 「構成的グループエンカウンターによる人間関係づくり」

会津若松市立河東学園小学校長 二瓶 重和 氏

構成的グループエンカウンターによる人間関係づくりについて、演習を交えながらお話をいただきました。

- 人間関係づくりに取り組む学校が増えている。
- なぜ人間関係づくりが必要か。現代の子どもたちは新しい人間関係を上手く作ることができない。トラブルを解消できない。
- 自分の感情をコントロールできるスキル、周りの感情を受け止めるスキルを身に付けさせたい。
- 「ぼくって結構いいじゃん。」という感覚である。

〔演習〕※エンカウンターを体験

- ◇「後出しじゃんけん～足し算じゃんけん」…ウォーミングアップ
- ◇「アウチ」～「あいこじゃんけん」…ウォーミングアップ
- ◇「質問じゃんけん」…自己理解・自己受容、表現のスキル、傾聴・共感のスキル、他者理解
 - 二人組でじゃんけんをし、勝った方が相手に質問できる。
 - 負けた方は正直に答えるが、答えたくない質問には「パス」もできる。
- ◇「他者紹介」…役割遂行、表現のスキル、傾聴・共感のスキル、他者理解
 - 「質問じゃんけん」でペアになった相手について新しく出会った2人に紹介する。
 - 聞いている人は、とにかく「よく聞く」ことを心がける。
- ◇「すごろくトーク」…自己表現・主張、傾聴・共感・配慮のスキル
 - 自分のコマが止まった所に示されたテーマや課題で「自己表現」をする。
 - 発表の「順番を守ること」「よく聴くこと」に心がける。
- ◇シェアリング…気付きや感想の共有、他者理解、自己理解、傾聴のスキル
 - これまでを振り返り、感想や気付き、今の気持ちを発表し、共有する。
- 「ほめる」「安心させる」言葉をたくさん持っている、子どもたちとあたたかなかわり合いをすることができる。ぜひ言葉を増やして子どもたちに積極的にかかわって欲しい。



事例発表「ぬかざわ遊友クラブの取組」

本宮市放課後子ども教室コーディネーター 国分 進 氏



平成24年度文科大臣表彰を受賞した本宮市のぬかざわ遊友クラブの取組について発表をいただきました。

ぬかざわ遊友クラブは、開設から10年目を迎え、学校ではできない経験ができる場として地域に浸透してきました。毎年参加人数が増えている要因は、あそび・なかま・見守りという大きなテーマのもと、スタッフが協力して子どもたちの育ちを支えていることにあります。

あそび…思いっきり体を動かす、新しい感覚を覚える

なかま…学年や地区を越えて、集団で遊ぶ楽しさを味わわせる

見守り…大人と一緒に遊ぶ

本宮市遊友クラブでは、年間プログラムを「おはなし会」・「集団遊び」・「工作」・「昔あそび」の大きな領域で構成し、子どもたちの豊かな学びとあそびを提供しています。

放課後の安心安全な居場所作りとして、地域の人材を活用し、地域の子どもは地域で育てるという高い意識のもと、着実に成果を挙げているすばらしい実践です。

講話「かぼちゃプロジェクトと放課後子どもプラン」

南陽市放課後子どもプランかぼちゃプロジェクト代表 佐藤 大祐 氏

20代の若者たちが、町おこしとして始めたかぼちゃプロジェクトを、放課後子どもプランと連携して取り組んでいる実践をお話いただきました。

発足当時は、イベント性とエンターテインメント性の高い活動を精力的に展開していましたが、徐々に地元に着した活動へと転換し、平成24年に放課後児童クラブと連携した活動を始めました。

1年間を通して、かぼちゃの種まきから収穫までを子どもたちと一緒にやり、冬場にはかぼちゃを利用した料理作りや創作活動を行っています。体験を通じた学びや遊びが、子どもたちの健やかな成長を支えています。子どもたちは、かぼちゃプロジェクトの活動を楽しみにしており、活動を進めるプロジェクトのメンバーとの交流も進んできました。

佐藤氏は、このかぼちゃプロジェクトを挑戦の場ととらえ、町おこしのためこれからも新しいものにチャレンジしていきたいと話されました。

若者の活気あふれるチャレンジが、子どもたちにもよい影響を与えているすばらしい実践です。県北域内でも、地域に目を向け、優れた団体や人材と連携した取組が増えるといいですね。



グループ協議（情報交換会） 「放課後子どもプランについて考えよう」

テーマ①子どものよりよい人間関係づくりのための取組

テーマ②活動の充実（運動不足解消等）に向けての取組

参加者全員が4つのグループに分かれて、2つのテーマについてそれぞれの立場から協議を行いました。他の地区の教室と交流することで、これまでの自分たちの活動を見つめ直し、これからの活動のヒントが見つかったようでした。



テーマ①について

- 日頃から上級生が下級生を遊びに誘うようにしている。上級生がその場のリーダーになるよう助言している。
- けんかをして子ども同士で解決するように見守る。
- 縦割りの班を編成し、班活動に取り組ませている。
- 児童理解のために保護者ときちんと話すことが大切である。
- 言葉による暴力がみられる。相手に対する思いやりの心を育てていきたい。



テーマ②について

- 限られたスペースでの遊びを考え、子どもたちにも伝えていく。
- 校庭や体育館を使って遊ばせているので運動不足解消につながっている。
- 卒業生などが遊んでくれると、子どもたちは生き生きとして遊んでいる。

御意見 要望 感想（参加者アンケートから）

- ・大変有意義な研修内容であった。
- ・グループエンカウンターを体験でき楽しく学習できた。初めてお会いした方ともすぐに親しくなれた。
- ・情報交換が参考になった。自分たちの取組と直接あてはまらないところもあるが、よいヒントになった。
- ・人間関係づくりやコミュニケーションの取り方などもっと研修したいと思った。
- ・かぼちゃプロジェクトの若者のパワーを感じた。放課後子どもプランを通して、子どもたちとの活動が広がればよいなと思った。
- ・発達障害についての研修（一人一人の子どもに合わせた対応や支援の仕方）を企画して欲しい。

